3. 復興支援ボランティア事業

ボランティアスタディツアー

「サンタプロジェクト５」参加レポートより

私がサンタプロジェクトに参加するのは今年で３回目になります。その中でも、初めて参加した１年生の時、学生企画が始動した２年生の時の参加と、私にとっては思い入れの強いプロジェクトです。そして学生生活最後のツアーということもあり、今回は行かない理由などありませんでした。私の学生生活の中で復興支援ボランティアの位置づけは、考え込んで行動になかなか移すことができなかった自分を変えてくれた場所です。そして、自分の可能性を見出すことが出来、自分に自信を持てるようになれたのも、この復興支援ボランティアがあったからだと思っています。

郷土料理のお母さんたちは、私の地元の知り合いのおばちゃん達と同じような雰囲気を持っていて、なんだか懐かしくなり甘えたくなります。非常に謙虚であり、陰ながら努力していて、慈悲深い眼差しで私たちのことを歓迎してくださいます。「有り難い、有り難い」と言葉を繰り返しては、優しく手を握ってくれます。私にとってのお母さん方は、女性としての強さとしなやかさを兼ね備えた憧れの存在です。これは東北という地域がそうさせたのだと思っています。この郷土料理然りお母さん方然り、この地元の文化を未来へと継承していって欲しいです。

ボランティアでは、思いやりという言葉をよく耳にします。けれども、思いやりという言葉はあまり好きではありませんでした。それは高校の時、英文を訳していた時にたまたま「sympathy」という言葉に出会い、辞典をひくと①思いやり、②同情と意味が載っていたことから始まります。その時の衝撃は未だに忘れることができません。思いやりとは同情することなのかと考え、しかし何となくニュアンス的に理解できてしまうところもありました。今になって考えてみると、これはただ単に文化の捉え方の違いなのかもしれません。思いやりといえば聞こえは良いですが、同情といって良く思う人はいないことでしょう。しかし、日本では「オモテナシ」や和を重んじる文化があり、もしかすれば、この思いやりという表現も日本独特の文化なのかもしれません。だとするならば、どんな時も謙虚に、人を大切に想い(これが思いやりなのかは分かりませんが)、だけど、芯のある真っ直ぐな自分でいたいと思います。

最後に、私はこの復興支援ボランティアがあって、地元にＵターンすることができたと思っ

ています。きっと何もしていなかったら、地元に誇りを持つことも、好きでいることも、地元の穴場スポットを巡ったり探索したり、イベントに積極的に参加したり、友達以外の地元の人と繋がることもなかったと思います。また、この活動を通じて、自分がアウトプットする機会を設けたいと、東北出身者を集めたオモテナシ祭を企画することにもなりました。「復興とは、地元に誇りを取り戻すこと」と伊藤さんがおっしゃっていました。正直、何もない田舎に退屈している人は大勢いると思います。その中で、この企画は東北出身者の後輩たちに「地元に誇りを取り戻す時間」と「知っているようで見落としていた新しい地元の魅力の気づき」を与えてくれたことだと思います。そのヒントや生き方を教えてくれた釜石の人たちには心から感謝しています。

いつもツアーでは、みんなのようには話しかけられないシャイなところが、自分は東北人なんだなあと感じる瞬間です。これから大学を卒業してからは、私は東北と一緒に歩んで行きたいです。まだまだ知らない東北と出会い、東北を盛り上げることをし続けたいです。一応東北6県行ったことはありますが、チーム東北のメンバーと話をしていると、文化が全然違ったり、方言が違ったり、面白いなあと思っています。この4年間の成長とともに、自分が地元で貢献できることをしていきます。

こども心理学科4年　山田襟佳　(2015年12月)

（1）東日本大震災復興支援ボランティアスタディツアーの実施

2011 年８月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施している。今年度は、春、夏、冬と、計３回のツアーを実施した。実施にあたっては、岩手県釜石市を拠点に活動する一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校の現地コーディネート協力と、釜石市の後援を受けている。釜石市とは、2014 年１月に連携協定を締結している。

また、ツアーの企画と運営は学内のボランティア団体「復興支援ボランティアチーム【SAVE】」と協働で取り組んだ。

ｉ）桜プロジェクト3

釜石市鵜住居地区における生活再建への支援の一環として学生発案による「桜プロジェクト」が 2012 年の初めに立ちあがり、さいたま市北区盆栽町にある「清香園」の協力を受け、「盆栽桜を届ける」企画として実現。鵜住居地区長内集会所にて株分け作業を地域の方々と一緒に行った後に、約 200 鉢を贈呈した。また会場横の公園で「こどもあそびひろば」を実施したほか、仙寿院にて昨年から行われている、津波が来たら高台へ避難することを伝えていく「韋駄天競争」の再現版として、「津波伝承の駆け上がり競争」を仙寿院、釜石応援団の協力のもと実施した。

①　プロジェクト会議の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】内でプロジェクトリーダーを選出。そのプロジェクトリーダーとともに、週１回程度の企画会議を実施、さらにはツアーのより綿密なプログラム作りを行うために現地の下見を行った。

・企画会議：2015 年２月６日㈮、18 日㈬、3月１３日㈮、２０日㈮、２７日㈮、
　　４月３日㈮、９日㈭、１５日㈬　毎回２時間半程度　計８回
・下見　　：2015 年２月 10 日㈫～12 日㈭

②　募金活動の実施

復興支援ボランティアチーム【SAVE】が主体となって、盆栽桜購入のための募金活動を行った。３月１１日㈬の活動では、聖学院高等学校生徒会メンバーも駆けつけ協力してもらった。

・募金日時：３月１１日㈬、４月９日㈭
・実施場所：JR 大宮駅西口（3/11）、聖学院大学（4/9）
・募金総額：91,891 円

③　ツアーの実施

・ツアー準備会：2015年４月１４日（火）
・ツアー日程：２０１５年４月１７日（金）夜～１９日（日）夜
・活動場所：岩手県釜石市鵜住居地区
・宿泊：4/１７車中　4/１８釜石市民交流センター
・活動内容：
　―事前学習会（大学、4/１７夜）
　　釜石市出身、現在は上尾で薬剤師をされている小澤嘉代子さんに、釜石の歴史や文化についてお話いただいた後、映像を通じて震災時の学習と鑑賞後の感想共有を行った。
　―盆栽桜の株分け作業と配布活動（長内集会所）
　　応募いただいた仮設住宅の方々に盆栽桜のプレゼントを行った。また、ご来場いただいた方に桜の花びらカードにメッセージを書いていただきながら交流の場を持った。
　―こどもあそびひろば

盆栽桜配布の同会場で、子ども達対象の「子ども遊びひろば」を実施した。

―津波伝承の駆け上がり競争

震災の大きな教訓を永く後世につたえるべく、釜石出身の若者を中心に立ち上げた企画を実際に体験した。

―選択活動①（２つの活動から１つ選択）

ｉ．2011 年３月 11 日とその後の歩みを知る（被災地見学、釜石市内）
一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校代表の伊藤聡さんのガイドで釜石市内を見学しながら、2011 年３月 11 日に起きたことと、その後の歩みを学んだ。

ii．釜石の未来を聴き、語りあう会（釜石市民交流センター）
大学等で学ぶため一度釜石を出て戻ってきた若者たちと語り合う会を行った。

―選択活動②（３つの活動から１つ選択）

ｉ．漁業ボランティア
両石港の漁師さんのところで塩蔵わかめづくりのお手伝いを行った。

ii．ちょろぎ育成プロジェクト
おせち料理によく使われる釜石の特産である「ちょろぎ」の畑を耕す作業を行った。

iii．桜の苗木を植えるお手伝い
橋野町で新たに 400 本超の桜の苗木（約 3m）を植樹するお手伝いを行った。

・参加者数：学生２５名、教員４名、職員３名、卒業生１名（※1）　ゲスト１名（※2）
計３４名

※１ツアー直後に釜石市内でインターンシップに取り組む卒業生にスタッフとして関わってもらった

※２今回のツアーの取材目的で埼玉新聞社の記者が同行した

④　ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】プロジェクトリーダーとともに振り返りの時をもった。

日時：５月７日㈭１８:４０～２０:５０

ⅱ）よいさっ！プロジェクト

震災から２年の 2012 年８月に復活した釜石の夏の風物詩である「釜石よいさ」に踊り手として参加することと、春に行ったこどもあそびのイベント「かまっこ★あそびーらんど」の実施をメインとしたプロジェクト。昨年に引き続き、文部科学省のスーパープロフェッショナルハイスクール指定校であり、本学と連携協定を結んでいる埼玉県立常盤高等学校と、新たに本学と同法人である聖学院中学高等学校の生徒が参加した。

① プロジェクト会議の実施

本学（復興支援ボランティアチーム【SAVE】）と常盤高等学校内でプロジェクトリーダーを選出。プロジェクトリーダーと３校の教職員で月１回程度の３校合同会議を実施。また本学においては週１回ペースでプロジェクトリーダー会議を独自に行った。さらには現地の下見を本学のプロジェクトリーダーと３校の教職員で行い、ツアーのプログラム作りを行った。

・３校合同会議：5月２２日㈮、6月２０日㈯、7月4日㈯、8月4日㈫
・プロジェクトリーダー会議：5月２８日㈭、6月5日㈮、9日㈫、１６日㈫、２５日㈭
　　３０日㈫、7月7日㈫、１４日㈫、２３日㈭
　毎回２時間半程度　計9回
・下見：７月１１日（土）～１３日（月）

②ツアーの実施

・ツアー準備会：2015年７月２１日（火）
・ツアー事前学習会：２０１５年8月5日㈬
・ツアー日程：2015年８月６日（木）朝～9日（日）夜
・活動場所：宮城県仙台市若林区荒浜、気仙沼市
　　岩手県釜石市鵜住居地区、大只越町、嬉石町　ほか
・宿泊：８月６日（木）ホテル一景閣（宮城県気仙沼市）、
　　８月７日（金）～8日（土）岩手県立陸中海岸青少年の家（岩手県山田町）
・活動内容：

―被災地見学Ⅰ（宮城県仙台市若林地区荒浜）
この地域出身で、聖学院の在校生でもあるメンバーから当時の状況について話を聴いた後、日本キリスト教団東北教区センター・エマオ協力のもと、宮城県内で津波の大きな被害を受けた荒浜地区のフィールドワークを行った。

―被災地見学Ⅱ（三陸鉄道盛駅～釜石駅、大船渡市、唐丹町、鵜住居地区、大槌町）
2011 年３月 11 日に何が起きたのか。昨春に復活した三陸鉄道南リアス線の「震災学習列車」に乗車し鉄道員さんに沿岸の町のようすをガイドしていただいたほか、甚大な被害のあった、大船渡市、釜石市鵜住居地区、根浜地区を見学した。

―選択活動①（３つの活動から１つ選択）

ⅰ．「かまっこ★あそびーらんど」の開催（港町）
釜石の子どもたちが思いっきり遊べるイベントを学生中心に運営した。

ⅱ．同世代（社会人）との交流
三陸ひとつなぎ自然学校の久保さんや旅館「宝来館」でインターンシップに取り組む聖学院大学卒業生の協力を得て、釜石の魅力をより外に発信するプログラム作りを２人と一緒に考え、提案する時間を持った。

ⅲ．お茶っこサロン
仮設住宅内のコミュニティづくりのために行われているおしゃべりの場「お茶っこサロン」に参加し、お住いの皆様と交流を行った。

―「釜石よいさ」への参加（大町～只越町）
震災以前から、釜石の夏の風物詩として行われてきた夏祭り「釜石よいさ」。震災後、釜石の若手を中心に復活させた、この祭りを釜石の方々とともに踊り手として参加した。

―選択活動②（市内でのボランティア活動、３つの活動から１つないし２つ選択）

ⅰ．「かまっこ★あそびーらんど」の開催（港町）

釜石の子どもたちが思いっきり遊べるイベントを学生中心に運営した。

ⅱ．地元高校生徒との交流（大町～只越町）

地元釜石でまちづくりの活動に取組む高校生と交流を行った。

ⅲ．鉄の歴史館の見学（大平町）

―活動のふりかえり（８/６夜、８/９午前、帰りのバス内）

・参加者数：聖学院大学　　学生３５名、教員５名、職員４名

常盤高等学校　　学生１４名、教員２名

聖学院中学高等学校　学生８名、教員１名　　合計６８名

③　ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】と常盤高等学校のプロジェクトリーダーと３校の教職員ともに振り返りの時をもった。

日時：８月22日(土)13：30～17：00

ⅲ）サンタプロジェクト5

今回で３回目となる釜石・大槌郷土料理研究会のお母さんたちに教わる郷土料理づくりや、サンタプロジェクトをはじめた2011 年から毎年実施している「こどもクリスマス会」の実施のほか、新たに、学生と釜石の方々が１対１で語り合う「みんなでかだっぺし」や仮設住宅の清掃とやきいも会など交流をメインとした活動を行った。

①　クリスマスカードの製作

昨年に引き続き、学生がデザインしたオリジナルのクリスマスカードを製作し、ツアーに参加する学生のメッセージを記入したものを、ツアー中に出会った方々にプレゼントした。

② プロジェクト会議の実施
復興支援ボランティアチーム【SAVE】内でプロジェクトリーダーを選出。そのプロジェクトリーダーとともに、週１回程度、企画会議を開催、さらには現地の下見も行い、ツアーのプログラム作りを行った。

・企画会議：10月８日(木)、15日(木)、22日(木)、29日(木)、11月12日(木)、19日(木)、26日(木)、12月２日(水)　の毎回２時間半程度　計８回

③ １年生必修授業内でのツアーPR実施
８分のツアー紹介動画を作成し、１年生の必修科目「キリスト教概論」授業を中心に、動画上映とコーディネーターや復興支援ボランティアチーム【SAVE】の学生からツアーの宣伝を行った。

④ツアーの実施
・ツアー準備会：2015年11月24日（火）
・ツアー日程：2015年12月4日（金）夜～6日（日）夜
・活動場所：岩手県釜石市鵜住居地区ほか
・宿泊：12/４車中　12/５　旅館「宝来館」
・活動内容
ー事前学習（12/４夜）
ー被災地見学（釜石港周辺ほか）
2011年３月11日に何が起きたのか。当日釜石の人々が避難した釜石港を見渡す高台にのぼり、震災当時の様子を一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校の伊藤聡代表にガイドいただいた。
ー現地の方々との郷土料理づくり（橋野町　栗橋公民館）
釜石・大槌郷土料理研究会のお母さん方に釜石に伝わる郷土料理の作り方を伝授いただき、教わったことを後日レシピにまとめてお届けした。
ー「みんなでかだっぺし♪」（鵜住居地区　長内(おさない)集会所）
仮設住宅のお住いの方や、聖学院大学がお世話になっている釜石の方々とトークフォークダンスという手法を用いて１対１で出会い語る場を持った。
ー選択活動（下記の２つから選択）
ⅰ.「こどもクリスマス会」（鵜住居地区　長内(おさない)集会所）
鵜住居地区の子どもたちを対象に学生企画のクリスマス会を行った。
ⅱ.「仮設掃除ボランティア」
地元の高校生とともに、仮設住宅の掃除（窓ふき、草刈り）を行った。
ー「みんなでヤキイモ」
上記、ⅰ、ⅱに参加された方々と合流し一緒にヤキイモ会を行った。
ー活動のふりかえり（12/５夜、12/６帰りのバス内）
・参加者数：学生３０名、教員４名、職員３名、ゲスト１名（※）　　計３８名
※震災前から「希望学」の調査で釜石市にて活動されている東京大学社会科学研究所の大堀研助教にツアー同行いただいた。

⑤ ツアー実施ふりかえり
ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、復興支援ボランティアチーム【SAVE】プロジェクトリーダーとともに振り返りの時をもった。
日時：2015年12月１８日（金）

Ⅳ）成果と課題

- 東日本大震災から４年が経ち、被災地への関心が薄れる中、聖学院大学では復興支援ボランティアスタディツアーを継続して年３回実施し、毎回参加者も定員いっぱい集まる状況にあり、震災への思いを持ち続けることができている。その一つの要因として、2013 年度から始まったプロジェクトリーダーの存在があげられる。毎回、願いの共有から現地のニーズに対応した企画を０から作り出すプロジェクトリーダーは、他の学生たちを巻き込むうえでも重要な役割を果たしている。学生たち自身の復興支援活動の文化がしっかりと根付いていることを実感する１年となった
- 活動内容については、現地の方の「支援され続けると心が折れる。」との言葉を受け、がれき撤去やお届け物などの一方通行の支援から、双方向の交流や地元の方の活動を支える形の協働型の活動が増えている。その結果、学生と現地の方一人一人との結びつきも生まれ始めている。そのつながりの結果として、釜石フェスティバル（下記参照）の実現にもつながっている。また、現地の方にも「次回はこのような活動をやってほしい」など、継続してくることへの信頼から、新しい依頼などもいただけるようになっている。結果、ツアーごとに新しい企画が盛り込まれるというサイクルが生まれている。
- 「よいさプロジェクト２」は、昨年度同様埼玉県立常盤高校との連携で実施された。さらに、前年度は参加できなかった、聖学院高校とも連携し、１大学２高校でのツアーを実施することができた。
- 次年度は震災５年という節目の年となる。引き続き現地のニーズと思いに寄り添いながら、柔軟にプログラムを企画し、学生が主体的に参画できる活動を展開していきたい。

(2)「釜石フェスティバル」の実施について

2014 年１月 29 日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、埼玉県内において釜石の魅力発信の機会とすると共に、聖学院大学の復興支援活動や釜石との関わりを通してできた繋がりや学びについて、学内外の方々に知っていただく機会として当フェスティバルを実施した。

i)実施概要

実施日：2015 年 11 月２日（月）10 時～15 時、３日（火）10 時～15 時 40 分
主　催：チーム釜フェス
共　催：釜石市
実施場所：チャペル（講演会）・２号館前スペース（模擬店）・2403 教室（活動展示）
来場者数：２日（月）・・・展示　53 名／釜石ラーメン 150 食完売
　　３日（火）・・・講演会　約 150 名／展示　137 名
　　釜石ラーメン 200 食完売／郷土料理　約 200 食販売

ⅱ）実施内容

①　展示

釜石笑顔写真、卒業生作成釜石ムービー、復興支援ボランティアチーム【SAVE】
漁業ボランティア、釜石学、坂本ゼミ、卒業生作成写真集、埼玉県立常盤高校、
岩手県立大学平塚研究室、釜石市役所

②　模擬店

釜石ラーメン、郷土料理（黒豆おにぎり＆ひっつみ、がんづき）、わかめの販売（２日目のみ）

③　講演会

共催：聖学院大学政治経済学部
後援：釜石市
講演：「希望のチカラ―困難からの新たなスタート―」　玄田有史氏（東京大学社会学研究所教授）
パネルディスカッション：
パネラー　玄田有史氏（東京大学社会科学研究所教授）
　　岩崎昭子氏（浜辺の料理宿「宝来館」女将）
　　渡邉エリカ氏（こども心理学科３年、復興支援ボランティアチーム【SAVE】代表）
進行　川田虎男（聖学院大学ボランティア活動支援センターアドバイザー）

※詳細に関しては６ページ参照

④　一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校メンバーによる釜石トークタイム「釜石に行こう！」
１日目：久保晨也さん(スタッフ)×インターン生×菊池祐太郎さん（本学卒業生、インターン生）
　　2403 教室
２日目：伊藤聡さん（代表）×菊池祐太郎さん　２号館前テラス

⑤　「釜石よいさ」練り歩き　（２日目のみ実施）

■取材
埼玉新聞、テレビ埼玉、J:COM さいたま、読売新聞釜石支局
※詳細は巻末資料参照

≪参加学生≫
チーム釜フェス実行委員・・・・　５名
ボランティアスタッフ　・・・・　14 名

ⅲ）釜石シティプロモーション推進委員会主催「釜石のこれまでと、これから」での活動報告
　東日本大震災から５年という節目のなかで、釜石市のこれまでの歩みを共有し、これからの復興に向けてこれまでかかわりを持ってきた市内外の団体とのつながりをより深めていくことを目的とした、表記イベントが実施された。主催団体より本学へ招待状が届き、釜フェス実行委員の学生がボランティア活動支援センター阿部洋治所長とともに、釜石と本学とのこれまでの関わりや取組についての紹介を行った。

実施日：2016 年３月 19 日（土）14：00～18：40
実施場所：釜石情報交流センター
活動内容：「復興協働団体ピッチ大会」での活動紹介
参加者：学生５名、阿部洋治所長

(3)台風 18 号被害に対する対応について

ⅰ)学生ボランティア活動可能性調査の実施

2015 年９月に発生した台風 18 号で被害が大きく、かつ学生の通学圏である地域において、コーディネーターとアドバイザーが活動可能性調査を行った。

日時：９月 13 日(日)

調査個所：埼玉県越谷市、栃木県小山市、鹿沼市

調査内容：社会福祉協議会での学生ボランティア受け入れ状況の把握と、被害状況の確認

ⅱ)栃木県小山市での復興支援活動

小山市社会福祉協議会を通じ、コーディネーターと学生がボランティア活動を行った。

日時：９月 21 日(月・祝)

活動内容：土嚢づくり、個人宅の泥だし・清掃

参加者：学生２名、コーディネーター1 名

ⅲ)ReVA 復興ボランティアチーム・上尾と連携した栃木県鹿沼市での復興支援活動

東日本大震災がきっかけとなり、復興支援に取り組む上尾市民を中心に立ち上がった「ReVA 復興ボランティアチーム・上尾」にお声掛けいただき、コーディネーターと学生が鹿沼市（窓口：鹿沼市社会福祉協議会）においてボランティア活動を行った。

日時：10 月３日(土)、４日(日)

活動内容：個人宅とその周辺の泥だし・清掃

参加者：学生１名、コーディネーター1 名

※ⅱ)、ⅲ)の活動にあたっては上尾市社会福祉協議会の補助をいただいて実施した。

ⅳ)茨城県常総市水海道児童センター共催「こども遊び広場」の実施

こども心理学科金谷京子教授（センター副所長）、児童学科坂本佳代子特任講師が常総市の調査をおこなったことと、常総市社会福祉協議会にボランティア登録をしたことがきっかけとなり、水海道児童センターとの共催で「こども遊び広場」を実施した。実施にあたっては金谷教授、坂本特任講師が企画から学生引率までを行った。

日時：11 月７日(土)、2016 年２月 23 日(火)

活動内容：工作や体操、食事作りなど

参加者：　11/7…学生４名、教員１名　　2/23…学生７名、教員２名

(4)「復興支援活動―いま私たちにできること―」の実施について

日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオの佐藤牧師をお招きし、東日本大震災発災以降の歩みについてご紹介いただいた後に、夏休み期間中にエマオで活動を行った学生有志グループ STEP による活動報告を実施した。

i)実施概要

日時：12 月 17 日(木) 18:30～20:00

会場：エルピスホール

ゲスト：佐藤　真史牧師（日本キリスト教団　東北教区被災者支援センター・エマオ）

参加者：31 人

ⅱ)実施内容

① 佐藤牧師のお話

・エマオの紹介と震災以降の歩み
・大学生のボランティア活動について
・メッセージ

② 聖学院大学学生の取り組み

・佐藤牧師、エマオとの出会い
　発表者：菅野雄大さん（こども心理学科１年、STEP プロジェクト代表）
・STEP メンバーによる夏のエマオでの活動報告

(5)「3.11 あの日から5年～未来への祈り～」の実施について

震災から５年という節目となる2016 年３月 11 日に、東日本大震災で亡くなった方、また現在も復興に向けて努力されている皆様を覚え、祈りの時と、これからを共にどう歩んでいくかを考える機会を持った。

ⅰ)実施概要

実施日：2016 年３月 11 日（金）14 時 15 分～15 時 45 分
主催： 聖学院大学ボランティア活動支援センター
　　聖学院大学復興支援ボランティアチーム【SAVE】
　　STEP（2015 年４月に発足した仙台中心に復興支援ボランティア活動に取り組むボランティア団体）
協力：一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校、浜辺の料理宿「宝来館」（岩手県釜石市）
　　日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオ（宮城県仙台市）
実施場所：聖学院大学チャペル
参加者数：約 50 名

ⅱ)実施内容

・礼拝（菊地　順　大学チャプレン）
・聖学院大学の被災地との歩み
・釜石の今、仙台の今―現地からのビデオメッセージ―
・被災地を覚えて―被災地とともに歩む聖学院大学からのメッセージ―

(6)関連機関との連携

ⅰ)大学間連携災害ボランティアネットワークへの参加について

東日本大震災が契機となり、災害時の大学間連携を目的とした標記ネットワーク（発足：2011年５月、事務局：東北学院大学）へ2015年２月に加盟した。

ⅱ)聖学院中学高等学校高校生徒会主催「2016.3.11　いま僕たちにできること」への協力について

昨年度に引き続き、高大連携の一環として、聖学院中学高等学校の高校生徒会より、東日本大震災を覚える時間を持ちたいという相談を受け、企画や運営について支援を行った。

・日程：2016年３月11日（金）
・内容
　-大学での取り組み紹介
　-大学生による被災地の現状報告と活動紹介（協力：復興支援ボランティアチーム【SAVE】）
　-今、自分たちに何ができるかグループワーク

(7)学生団体：復興支援ボランティアチーム【SAVE】による復興支援活動

ⅰ)活動報告

聖学院大学復興支援ボランティアチーム【SAVE】
共同代表　こども心理学科３年　渡邉　エリカ／人間福祉学科３年　中込　匡俊(2015年度)

私たちSAVEは、主に2011年３月11日に起きた東日本大震災で被災した岩手県釜石市を拠点としたボランティアスタディツアーや、埼玉で出来る復興支援のボランティアを行っている。私たちは出来る限り、釜石の声（現地のニーズ）に答えようと努力した上で、「そっと心に寄り添えるか」「どうしたら喜んでもらえるか」を考え、学生主体の意識と思いやりの心を持って活動に取り組んでいる。

【成果】

昨年に引き続き、本学学生の復興支援へのきっかけを作るという一面も持つ「ボランティアスタディツアー」を実施した。その内容は、４月に「桜プロジェクト」といった現地の方に春をお届けする為、桜の盆栽をプレゼントする活動。８月には「よいさプロジェクト」といった釜石のお祭りを現地の方と共に楽しむ活動。12月には「サンタプロジェクト」といった子どもたちにクリスマス会を開く活動である。どのプロジェクトにも、それぞれの四季に合った色を加え、少しでも釜石の方が笑顔になれるよう、お手伝いをしている。

また、お世話になっている釜石に恩返しをしたいと云う想いから、ヴェリタス祭（学園祭）で「釜石フェスティバル」と云うお祭りを開催した。学生と縁のある釜石の方々を招待して、一緒に郷土料理を作り、「食」「人」「自然」の３つの視点を中心に釜石の魅力を埼玉から発信した。

【課題】

私たちSAVEは、純粋に人を思いやる事に長けた団体である。偽善的でなく独りよがりではなく、本当に求められているものは何か、何が出来るのかを懸命に考え動いている。復興という名で進み続ける現地は、少しずつだが確実に変化している。東日本大震災から４年経った今現在、これまでの活動を続けるだけで

は現地のニーズとズレが生じてしまう。その為、これからのボランティアの在り方を見直し、存在理由を明確にする必要がある。今、必要とされているのは一方的な支援ではない。私たちの課題は、現地の人々と共に歩いていく術を見つけていくことである。

【総括】

報道番組では１年にたった１度しか東日本大震災に触れなくなった。次々と起きる自然災害を報道するメディアにとって、大きな被害は１つの話の種にしかならない。痛いほどに風化が目に見えている。時の経過と共に日常を取り戻している人も多い反面、災害公営住宅の建設や高台の造成の遅れ、また仮設住宅での生活が続いていることも事実である。またボランティア団体は今までの活動を継続しながら、新しい術でどの様に現地と関わりを持っていくか要となる。容易な作業では無いため、様々な問題点や現状を踏まえることが必要不可欠だと考える。

ⅱ)活動年表

日程	活動内容
2015年 4月８日(水)	「桜プロジェクト４」実施のための募金活動を学内にて実施
４月14日(火)	「桜プロジェクト４」実施のための募金活動をJR大宮駅にて実施
４月17日(金)～ 19日(日)	ボランティアスタディツアー「桜プロジェクト４」実施
５月13日(水)、14日(木)	学生有志によるネパール地震被災者支援のための募金活動への協力（学内）
８月６日(木)～ ９日(日)	ボランティアスタディツアー「よいさっ！プロジェクト２」実施
９月28日(月)、29日(火)	埼玉学生ボランティアネットワーク～わかたま～主催「台風 18号被災者支援のための募金活動」への協力（JR大宮駅）
11月２日(月)、３日(火)	「ヴェリタス祭」（学園祭）で行われた「釜石フェスティバル」実施協力
11月25日(水)	女声コーラスグループ「グリューン」主催クリスマスコンサート時に釜石市での「こどもクリスマス会」（サンタプロジェクト５）実施のための募金活動を実施
12月４日(金)～ ６日(日)	「サンタプロジェクト５」実施
12月12日(土)	・上尾市大谷地区自主防災組織と聖学院大学共催の「防災講座」での活動発表とグループワーク協力 ・「第６回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉」での活動発表
2016年 ３月６日(日)	さいたま市市民活動サポートセンター主催「被災地展示＆サロン」サロン参加
３月11日(金)	・聖学院高校生徒会主催「今僕たちにできること」にて活動報告 ・「3.11あの日から５年～未来への祈り～」参加 ・「桜プロジェクト５」実施のための募金活動をJR大宮駅にて実施
３月13日(日)	見沼区防災アドバイザー会主催「防災講演会」にて活動報告を実施

・活動メンバー：17名（2016年３月現在）

(8)学生団体:STEP による復興支援活動

ⅰ)活動報告

宮城県仙台市内で震災当時被災し、支援を受けたことがきっかけとなり高校生の時から活動している男子学生が本年度入学し、その学生が中心となって主に仙台市内での活動に取り組む学生有志グループ STEP が 2015 年春に発足した。その後、日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオを通じて夏（12 名)、冬(11 名)と農作業支援や仮設住宅でのサロン活動、子どもたちと遊ぶ活動に参加した。

ⅱ)活動年表

日程	活動内容
2015 年８月 12 日(水) ～14 日(金)	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオでの 夏のワーク第１陣
８月 19 日(水) ～21 日(金)	夏のワーク第２陣
８月 26 日(水) ～28 日(金)	夏のワーク第３陣
12 月 12 日(土)	上尾市大谷地区自主防災組織と聖学院大学共催の「防災講座」での活動発表とグループワーク協力
12 月 17 日(木)	聖学院大学ボランティア活動支援センター主催「復興支援活動―いま私たちにできること―」にて活動報告を実施
2016 年２月 23 日(火) ～27 日(土)	日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオでの 冬のワーク第１陣
３月 11 日(金)	「3.11 あの日から５年～未来への祈り～」参加
３月 15 日(火) ～19 日(土)	冬のワーク第２陣
３月 13 日(日)	見沼区防災アドバイザー会主催「防災講演会」にて活動報告を実施
３月 22 日(火) ～26 日(土)	冬のワーク第３陣